



# アヒアヒ

—岩手県民のてとてをつなぎ、環境の輪を広げるために—

海浜植物  
再生へ

## 根浜海岸再生事業の 取り組みスタート！

根浜海岸再生事業の一環として、釜石市立釜石東中学校が取り組むのが、海浜植物再生事業です。1年生から3年生がそれぞれ仕事を分担し、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマボウフウなどの海浜植物の再生を行います。5月24日は2年生が主体となり、ポット苗の植替えやプランターに種をまきました。今後は定期的に海岸の清掃活動を行い、秋には育った苗を砂浜に移植します。海岸林の底部を支える海浜植物が根づくことを願い、生徒たちは一生懸命に取り組みました。



4月に菅総理大臣が、2030年の温室効果ガスの削減目標を2013年度比46%減と表明しました。削減目標は、さらに50%の高みに向け挑戦することも強調しました。脱炭素社会へ向け本格的なスタートが切られました。私たち一人ひとりが責任を分担し、行動につなげていかなければなりません。



## Index

- 海浜植物再生事業
- 「岩手環境学習応援隊」企業の紹介 ～盛岡セイコー工業株式会社～
- センター活動レポート
- 岩手県環境基本計画、第2次岩手県地球温暖化対策実行計画
- 地域循環共生圏のつくり方をまなぶ③
- 環境学習交流センターイベント情報



# 「いわて環境学習応援隊」企業の紹介！

## ～環境とともに歩む～

### 盛岡セイコー工業株式会社

(岩手郡雫石町板橋61番1)

青空に岩手山がくっきりと浮かび上がる5月の中旬、雫石町の高級腕時計メーカー、盛岡セイコー工業株式会社を訪問しました。県内の企業等が行う環境の取組を見学・体験し学習する「いわて環境学習応援隊」に今年の1月に登録し、子どもたちをはじめ多くの地域の皆さんに事業の内容や環境への取り組みを広く知ってもらいたいと意気込む会社です。昨年7月にオープンした「グランドセイコースタジオ 雫石」は、日本を代表する建築家・隈研吾氏の設計によるもので、岩手の大地にそびえる岩手山をイメージし、エントランス部分の屋根が跳ね上がる美しい建造物です。カラマツの重厚な柱を基調に大和張りで陰影をつけた壁面は、自然との調和と共生を目指す建物として注目を集めています。時を刻む時計と同じようにリズムを持つ建物、グランドセイコーのブランドフィロソフィーである「The Nature of Time」を具現化するものとして創られました。世界的にも例をみない木造のクリーンルームを備え、卓越した技能者の皆さんが製造に励んでいます。この日は、林義明社長自らが案内役となりご説明をいただきました。



2020年7月にオープンした最終組立工程を担う「グランドセイコースタジオ 雫石」

### グランドセイコーの世界観、匠の物づくりとその精神を情報発信する

1970年この地で操業を始めた盛岡セイコー工業は、現在約650名の社員を有する企業です。ここで製造する高級腕時計「グランドセイコー」は、ぜんまい式のメカニカルウォッチで、部品の製造から組み立てまでを自社内で一貫して行います。会社の方針として、「匠の物づくりとその精神を知っていただく」、「グランドセイコーの世界観を世界に向け情報発信する」を掲げています。

最終段階の組み立て工程を担う匠の技能者として、世界クラスの技術を有するゴールドマイスター2名の他、社内の様々な製造工程などに、業界内で卓越するシルバーマイスター1名、社内で高い技術を有する十数名のブロンズマイスターを有します。これらは永久資格ではなく2年に1度の更新審査があり、精度の高い製品を生み出し、技能を継承する原動力となっています。



組立工程を説明する林義明社長

かな配慮を行っています。緑地の整備は社員が中心となって実施しています。2017年からはグリーンウエーブ活動へ参画、社員の家族も参加し、緑地ツアー、緑地アクティビティ（木の实探し、昆虫探し）や敷地内にさまざまな昆虫が棲める場所として「インセクトホテル」の製作など、自然とふれあい、生物多様性保全の大切さを知る活動を推進しています。

また、地域貢献活動として「御所湖の清流を守る会」が主催する清掃活動に社員が参加している他、「地域と始める環境報告会」を毎年開催しています。また、2015年一般社団法人いきもの共生事業推進協議会によるABINC認証を取得、2019年には「緑の都市賞」を受賞するなど、多くの環境活動の取り組みは、より優れた製品を生み出すために、その基盤となる環境の重要性を全社員が認識した結果といえます。



さまざまな昆虫の棲みかとなるインセクトホテル

### 持続可能なものづくりの追求

盛岡セイコー工業を代表する製品であるグランドセイコーのブランドフィロソフィー「The Nature of Time」にも表れている通り同社では従来から“環境と自然”を特に大切にしてきました。環境に配慮したもののづくりに注力し、CO<sub>2</sub>排出量を5年間で1,188トン削減した他、節水、紙の使用量削減、化学物質の浄化処理（排水処理、めっき廃液処理）、廃棄物の削減、再資源化（3R）などに取り組んできました。2004年にゼロエミッションを達成し現在も継続中です。また、昨年12月には、アナログクォーツ組立工場の屋根に約800kWの太陽光発電設備を取り付け、「グランドセイコースタジオ 雫石」で使う全電力量を上回る発電量を見込んでおり、気候変動対策に貢献しています。

環境負荷の軽減と達成の繰り返し、この延長にあるのが会社をあげての生物多様性保全への取り組みです。10万平米の会社敷地の緑化率は30%を誇り、緑地内には951本もの樹木があり、シジュウカラやヒヨドリなどの鳥類の他、ニホンリス、ニホンカモシカ、ノウサギなどが訪れます。緑地の管理では、一定の高さに草を刈るのではなく、専門家の意見を入れ、生息する生物の多様性を高めるために意図的に高さに変化を付けて刈るなど、細



敷地内の希少植物生息地

### 全社をあげたSDGsと脱炭素社会への取り組み



生物多様性の取組を説明する標識

「雫石の地で操業し50年、社員の9割は雫石町、滝沢市、盛岡市に在住する。環境に配慮したサステナブルな事業を行う組織として社員が誇れる企業でありたい。そのために地域貢献も大きな指標となる。生物多様性保全活動は、生産活動と直接つながらなくても、会社として重要であり、企業の社会的責任に通じる。」林社長はそう語ります。SDGsの視点である、「誰一人取り残さない」を視野に行政、地域住民、環境保全団体などと連携し、脱炭素社会に向けた取り組みも考え、その過程で新たな価値を創造する。盛岡セイコー工業の今後に期待が集まります。

同社では、施設見学の受入れを行っています。環境学習の機会として、ぜひ訪問してみたいかたがでしょうか。

#### 〈工場見学および環境活動の取組説明〉

ウォッチ製造工程の見学、各種環境活動の取組紹介（生物多様性保全、CO<sub>2</sub>削減、廃棄物削減など）緑地の観察および説明、所要時間 90～120分程度、人数15名ほど、申込み1ヶ月前までに予約の連絡をお願いします。

【総務部：いわて環境学習応援隊担当】TEL：019-692-3511

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見学の受入をお断りする場合がありますので、予めご了承ください。

## SDGs 探求をスタートしよう！ 岩手県立宮古高等学校 クロス THE SDGs アクションカードゲーム X

宮古高等学校では、2年生を対象に総合的な探究の時間を設けています。年間を通じたプログラムで、生徒たちがSDGsを自主的に調べ、課題解決に向けアクションを設定します。進捗の報告とフィードバックを繰り返し、年度末には発表を行います。5月17日に開催された「SDGs探求をスタートしよう」では、環境学習交流センターがSDGsの概要を映像を交えて話し、金沢工業大学の学生が考えた「THE SDGsアクションカードゲームX」を生徒たちが体験しました。

SDGsの概要では、身の回りでどんな課題が持ち上がっているのかを考え、SDGsの3つの要素①地球規模で考える、②バックキャスト、③誰一人取り残さない、などを学習しました。

その後、4～6人が一組となりTHE SDGsアクションカードゲームXに挑戦しました。このゲームは、課題を解決する際に陥りがちなトレードオフ（どちらか一方を選択し、もう一方は犠牲にするジレンマの関係）ではなく、「誰一人取り残さない」を実現するためリソースカード（解決の手段が書かれた）を用い、豊かな発想により社会課題の解決策を探るものです。

生徒たちは、トレードオフカードとリソースカードを比べ、課題の解決に向け話し合いを進めました。リソースカードは、発想を駆逐することで、互いがつながる関係にあることが見出されます。それらをストーリーとして組み立て、発表を行いました。

生徒たちからは、「環境問題の深刻さを知った」「身の回りのものだけでも多くの方法で解決する手段があることに気づいた」「限られたカードで解決策を見つける難しさを感じた」「すぐできる対策もある。意識して暮らしたい」「日本、世界につながる課題を考えることはためになる」「世界の国々はリソースを出し合い解決策を探るべき」などの感想が出されました。



SDGsの概要説明を聴く



トレードオフ課題の解決に向け話し合う



話し合いの結果をつなげ発表する

## いわてを知ろう!!

小岩井農場重要文化財ギャラリーOpen

### 時空を超えるデジタル空間

#### ～農業近代化遺産を巡る～

小岩井農場財団（栗石町）は、小岩井農場まきば園内に「小岩井農場重要文化財ギャラリー」をオープンしました。建物の内部や見どころを皆様にご紹介します！

公益財団法人小岩井農場財団の加藤浩子さんにご案内いただきました。ギャラリーに入り、まず目に飛び込んでくるのが「アドベンチャー・シアター」です。

美しい農場を横6メートルの巨大スクリーンの映像で紹介しています。創業当時の発展の歴史、3,000ヘクタールを超える広大な農場、普段は入ることのできない重要文化財の中などを、農場に暮らす鳥や小動物の目線で見ることができます。

反対側には、「小岩井農場開墾の歴史とアーカイブ映像」があります。1891年（明治24年）創業当初の、一面の荒野から、日本を代表する大規模農場へ発展する歴史を時代ごとのできごとと写真で綴っています。創業から現在に至る、牛・馬・耕作の様子を記録した貴重なアーカイブ映像です。

次は、「岩崎久彌（いわさき・ひさや）ストーリー」で、久彌氏の大きな写真が目を引きまします。小岩井農場の創業者は、小野義真氏、岩崎彌之助氏、井上勝氏で、3人の頭文字をとり、小岩井と命名されました。井上氏が初代の場



アドベンチャー・シアターと岩崎久彌ストーリー



国指定重要文化財21棟

主となり小岩井農場が開設され、継承した久彌氏は、経営基盤を充実させ、牧畜中心の運営を進めました。奥には、「ヘリテージ・ウォール」があります。手を近づけると絵があらわれ、音が鳴る幅8メートルの不思議な壁です。重要文化財21棟の特長と建設当時の様子を、最新のデジタル技術で紹介しています。もうひとつの壁面には「国指定重要文化財21棟」の歴史、機能などを、くわしく紹介しています。築後百年を経た現在も事務所、倉庫、牛舎として建物の多くを使用し続けている、いわば生きた文化財（リビングヘリテージ）です。

先達の努力が、「不毛の原野を緑の環境として創造」してきました。「持続可能な発展」を目指し、百年を超える企業活動の過程で造られた建造物群の形状を極力変えずに保存し、継続して使用しています。

小岩井農場におでかけの際は、ぜひ「重要文化財ギャラリー」の見学もおすすめします。



開館時間：午前10時～午後4時  
（土日祝日は同5時まで）

ギャラリー入館料は無料ですが、まきば園の入場料が必要です。

# 「岩手県環境基本計画」、 「第2次岩手県地球温暖化対策実行計画」 概要

県では、令和3年3月に、「いわて県民計画（2019～2028）」の推進に向けた環境分野の基本的方向を定める「岩手県環境基本計画」と、県の地球温暖化対策や気候変動対策の施策の方向性を定める「第2次岩手県地球温暖化対策実行計画」を策定しました。計画期間は令和3（2021）～令和12（2030）年度です。以下、計画の概要を紹介します。



## ▶ 岩手県環境基本計画

●新しい「岩手県環境基本計画」では、環境を通じた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指すとともに、「温室効果ガスの2050年実質ゼロ」を目指した取組を推進します。持続可能な社会の実現に向け、私たち県民一人ひとりが自分事としてとらえ、行動・実践していく必要があります。

**第1章** 総論では、①現状と課題、②今後の環境施策の展開の基本的な方向、③本県の環境施策が目指す将来像と施策体系を示し、目指す将来像として、「多様で優れた環境と共生する脱炭素で持続可能ないわて」を掲げています。

**第2章** 本県が直面する環境・経済・社会の複合的課題に対応するため、環境分野を超えた他の分野と連携した3つの施策分野を掲げ、**環境・経済・社会の一体的な向上に向けた横断的な施策**の方向性を示しています。

- ① 地域資源の活用による環境と経済の好循環
- ② 自然と共生した持続可能な県土づくり
- ③ 環境にやさしく健康で心豊かな暮らしの実現



**第3章** 本県の環境の保全・創造を実現する**環境分野別施策**として、5つの施策分野と目標（2030年度）を掲げています。

- ① 気候変動対策
  - ・温室効果ガス排出削減割合41%（現状16.6%）
  - ・再生可能エネルギーによる電力自給率65%（現状34.4%）
- ② 循環型地域社会の形成
  - ・一般廃棄物のリサイクル率27%（現状18.2%）
  - ・産業廃棄物の再生利用率61%（現状60.6%）
- ③ 生物多様性の保全・自然との共生（生物多様性地域戦略）
  - ・イヌワシつがい数29ペア（現状27ペア）
  - ・自然公園ビジターセンター等利用者数470千人（現状420千人）
- ④ 環境リスクの管理
  - ・河川、湖沼、海域の環境基準達成率99.1%（現状98.2%）
  - ・大気中のPM2.5等環境基準達成率100%（現状100%）
- ⑤ 持続可能な社会づくりの担い手育成と協働活動の推進（環境教育等行動計画）
  - ・環境学習交流センター利用者数50,000人（現状49,789人）
  - ・水生生物調査参加率7%（参加者数3,100人）（現状6.9%）



**第4章** 計画の推進・進行管理について記載しています。



詳細は「岩手県ホームページのトップページ > くらし・環境 > 環境 > 環境政策 > 岩手県環境基本計画（計画期間 令和3年度から令和12年度）の策定について」をご参照ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kankyou/seisaku/1005539.html>

# ▶ 第2次岩手県地球温暖化対策実行計画 ～いわてゼロカーボン戦略～

●第2次岩手県地球温暖化対策実行計画は、「温室効果ガス排出量2050年実質ゼロ」を踏まえ、2030年度の目標の達成に向け、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と気候変動の影響による被害を回避・軽減する「適応策」の気候変動対策を一体的に推進することとしています。計画は8章で構成され、目指す姿として、「省エネルギーと再生可能エネルギーで実現する豊かな生活と持続可能な脱炭素社会」を掲げました。



●目標は、2030年度の温室効果ガス排出削減割合（2013年度比）41%とし、再生可能エネルギー電力自給率を65%、森林吸収量1,339千トンとしています。また目標達成に向け、右記3つの取組の柱を示しています。

省エネルギー  
対策の推進

再生可能  
エネルギーの  
導入促進

多様な手法に  
よる地球温暖化  
対策の推進

●地球温暖化の適応策として、「農業、森林・林業、水産業」、「水環境・水資源」、「自然生態系」、「自然災害・沿岸域」、「健康」、「産業・経済活動」、「県民生活等」の7分野に具体的な適応策を示しました。



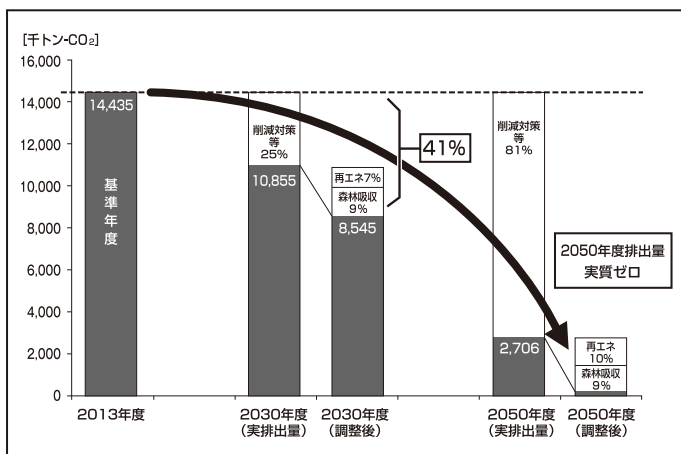
(例)

分野	主な影響と将来予測	具体的な適応策
農業	高温によるコメ・果樹の品質低下	環境の変化に対応した新たな水稻品種の育成
水産業	海水温の上昇によるサケ等の分布域の変化	秋サケ増殖に関する研究
自然生態系	野生鳥獣の生息域拡大による農業・人的被害	野生鳥獣の被害対策
自然災害	大雨、短時間強雨の増加による洪水等水害	河川改修、防災知識の普及
健康	熱中症者数、感染症リスク増加等	熱中症、感染症対策の注意喚起等

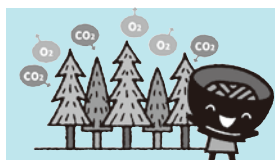
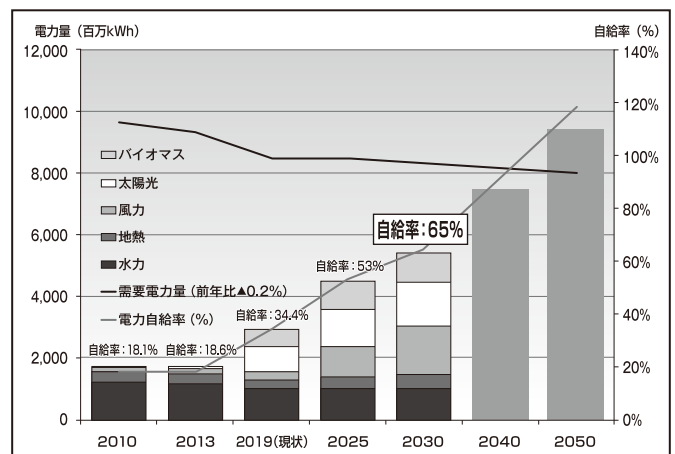
●本計画では、各主体の役割を示し、県・市町村・県民・事業者・教育機関・関係団体等、様々な主体が連携・協働をしながら、各種施策を展開していくこととしています。



## 岩手県における2050年までの温室効果ガス排出量削減想定シミュレーション



## 岩手県における再生可能エネルギーによる電力量と電力(実績・目標)



詳細は「岩手県ホームページのトップページ > くらし・環境 > 環境 > 環境政策 > 第2次岩手県地球温暖化対策実行計画（令和3年3月）の策定について」をご参照ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/kankyuu/seisaku/1005573.html>

## 地域循環共生圏のつくり方をまなぶ③

### 協同の仲間づくり、地域プラットフォームづくり

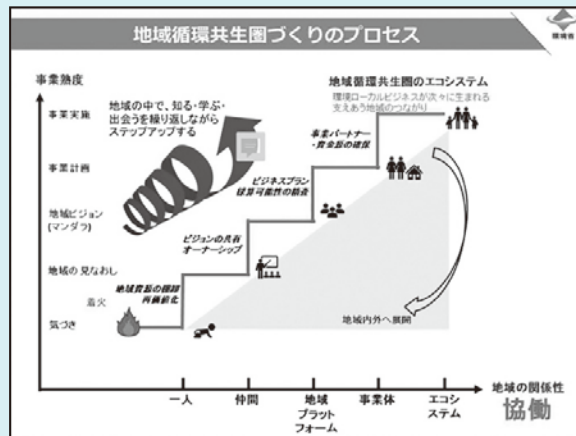
地域の統合的向上実現のために環境分野だけではなく、社会、経済の分野で活動するプレイヤーとの協働が不可欠です。SDGs17番のパートナーシップです。協働とは、多様な主体が目的を共有し、対等な立場で互いを理解し、役割を認めながら取り組みます。異なる視点が交わり、新たな気づきや革新的な事業のタネが生まれ、価値の創造につながります。ビジネスの世界で耳にする「オープンイノベーション」と同じコンセプトです。

協働実現のためには、プレイヤーに声をかけ、議論の場・協働の場をつくります。仲間づくりは話を聞くことから始まり、地域の未来や課題を共感し、学びあい、協働できる仲間を徐々に広げていきます。集まった仲間、誘いたい仲間は、ステークホルダーリストに整理します。

協働の関係づくりは、事業計画の検討と平行して進めます。プロセスは図に示すように、継続的に議論し、活動するチームとして「地域プラットフォーム」を立ち上げます。横軸の地域の関係性を深めながら、縦軸の事業の熟度を上げていきます。（実際には行きつ戻りつしながらの進行です）事業化の際に関係者による事業体がつくれますが、ローカルSDGs

（地域循環共生圏）ビジネスの事業体は、営利企業やNPO 法人、自治組織、プロジェクトチームなどが、幅広く想定されます。事業体が次々生まれ、支えあうつながり「エコシステム」を目指します。

環境学習交流センターでは、毎月1回第3水曜日の午後6時から「いわてSDGsカフェ」が開催されます。県内各地から集まる多様な人々が対話によって関係を深める場となり、地域プラットフォームづくりが始まっています。



## 環境学習交流センターイベント情報

### ★夏休み環境学習講座★

#### ◆「海が大変！海の生き物会議開催！」

日時：7月10日（土）13：30～15：00  
定員：15名  
講師：JICA岩手デスクスタッフ、センタースタッフ

#### ◆「脱炭素生活は地球とお財布に優しい！」

日時：7月18日（日）13：30～15：00  
定員：15名  
講師：佐々木 幸氏

#### ◆「太陽光エコハウスを作ってみよう！」

日時：7月24日（土）13：00～15：00  
定員：保護者と子供8組  
講師：センタースタッフ

#### ◆「一緒に学ぼう！太陽光自家発電 ～おひさまくんってなあに～」

日時：8月22日（日）13：30～15：00  
定員：15名  
講師：薄井 信次氏

夏休み環境学習講座の会場はいずれも環境学習交流センターです。参加は無料です。お電話でお申し込みください。

### ★センター展示情報★

企業展示：株式会社 青工

「地球にやさしい床暖房」

温風式蓄熱床暖房「春暖治」の紹介

期間：7月9日（金）～8月31日（火）9:00～19:00

環境学習交流センターでは環境アドバイザーの派遣、センターにおいていただく訪問学習、エコカーゴで出向く出張環境学習会を行っています。お気軽にご相談ください。

### ●「いわて環境情報板」（WEB掲示板）発信中です！●

岩手県や県内自治体の環境情報、イベント情報、助成金情報などを中心にお伝えします。

環境という広範囲な話題を、皆さんにとって身近に感じられるよう、その時々タイムリーな情報と切り口でお届けします。毎月発信していきますので、お楽しみに！

「いわて環境情報板」：<http://www.iwate-eco.jp/know/mailmag.html>

いわて環境情報板 🔍 検索

### 発行 環境学習交流センター

〒020-0045

盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ5F

TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753

◎環境学習交流センターは、認定特定非営利活動法人環境パートナーシップ  
いわてが岩手県から委託を受けて、県とNPOとの協働により運営しております。

[E-mail] [eco@aaina.jp](mailto:eco@aaina.jp)

[Website] <http://www.aaina.jp/environment/>

[Blog] <http://blog.iwate-eco.jp/>

[Twitter] [http://twitter.com/iwate\\_eco](http://twitter.com/iwate_eco)

[Facebook] <https://www.facebook.com/iwate.eco>

